

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	清永 裕子
2. 審査委員	主 査：青木 多寿子 副主査：三沢 良 委 員：川上 綾子 委 員：尾上 雅信 委 員：三宅 幹子
3. 論文題目	教員組織を支える校長のリーダーシップに関する研究 ―フォロワーの認知に着目した社会心理学的アプローチ―
4. 審査結果の要旨	学校教育実践学専攻 学校教育方法連合講座 清永裕子から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和 7 年2 月3日（月） 10 時30 分～12 時00 分 形式：Zoomによるオンライン形式 1. 学位論文の構成と概要 学位論文の構成（章立て） 第1章 問題と目的 第1節 教員の多忙化と教員組織の在り方について 第2節 校長からのソーシャル・サポートに関する研究の重要性 第3節 教員が認知する校長からのリーダーシップに関する研究の重要性 第4節 近年の社会心理学領域におけるリーダーシップ研究の流れ 第5節 本研究の目的 第2章 教員が認知する校長からのソーシャル・サポートに関する研究（研究1） 第1節 目的 第2節 方法 第3節 結果と考察 第3章 校長のリーダーシップと教員の集団同一性 ―個人間の関係か集団か―（研究2） 第1節 目的 第2節 方法 第3節 結果 第4節 考察 第4章 総合考察 第1節 本研究の目的と得られた知見 第2節 校長によるソーシャル・サポートを有効に機能させるためには 第3節 校長によるリーダーシップを有効に機能させるためには 第4節 まとめ 第5節 今後の課題 第5章 引用文献

学位論文の概要

第1章 問題と目的

第1節では、本研究の背景として、近年の教員の業務の多様化、多忙化をあげ、これに対応するためには、教員組織を支えて集団として有効に機能する状態を作ることが重要であることを先行研究に基づき説明した。さらに、教員組織が有効に機能するために校長のソーシャル・サポートとリーダーシップが重要であることに触れた。

第2節では、校長からのソーシャル・サポートの重要性について、先行研究を踏まえて説明した。先行研究からは校長のソーシャル・サポートは、教員のメンタルヘルスの維持・改善に関連すると考えられる。しかし我が国では、校長からのソーシャル・サポートを教員の認知の側面から取り上げた研究はほとんどない。そこで、本研究の中で、校長からのソーシャル・サポートを教員の認知の側面からとらえるための調査研究を行うことを説明した。

第3節では、校長のリーダーシップと教員の集団同一性の関連性を研究する必要性を述べた。リーダーの働きかけで教員の集団同一性を高めて教員のエンパワメントを高めることが多忙な教員の職務ストレスを軽減させる可能性がある。これに関し、Parker & Haridakis (2008)は、集団同一性には自己と他者との関係レベルに関する認知、そして自己を組織・集団の一員としてとらえる集団レベルの認知の両方が含まれているとしている。他方で従来の研究では、集団同一性を関係レベルと集団レベルで区別してリーダーシップとの関係を検討した研究はない。しかし、リーダーシップと集団同一性の関係を詳細に分析すれば、教員組織を支える効果的なリーダーシップの在り方の示唆を得られると考える。そこで、教員の集団同一性について関係レベル、集団レベルに分けて校長のリーダーシップの関係について現職教員を対象とした調査を行って確認する必要性を述べた。

第4節で、近年の社会心理学領域におけるリーダーシップ研究の流れとフォロワーに着目した研究が主流となっていることを先行研究に基づき説明した。

第5節で、本研究全体の目的についてまとめた。

第2章 教員が認知する校長からのソーシャル・サポートに関する研究（研究1）

本章では、教員が認知する校長からのソーシャル・サポートに影響する要因と、教員の校長からのサポート認知が教員のストレス反応に及ぼす影響を検討した。調査対象者は公立の学校教員329名、質問紙で尋ねた尺度は、教員が認知する校長のサポート、教員が知覚する校長の勢力、エンパワメント尺度、校長とのコミュニケーション尺度、職場でのストレス反応であった。分析の結果、教員の校長からのサポート認知については、教員が認知する校長の勢力、教員のエンパワメント、校長とのコミュニケーションが道具的サポートと情緒的サポートに影響していたがその詳細は異っていた。ストレス反応では、教員が認知する校長からの情緒的サポートと教員の自己主張が、ストレス反応を減少させること、また、校長とのコミュニケーションや教員の自己主張、校長の専門、報酬、参照勢力が、情緒的サポートの認知の顕在化に関わることが示された。

本研究の結果から、教員組織のメンタルヘルスを改善するには、校長の日常的な影響力へ目を向ける重要性、教員の自己主張を促す風土作りやスキル向上を目指す意義を示すことができた。

第3章 校長のリーダーシップと教員の集団同一性 一個人間の関係か集団か（研究2）

本章では、校長のリーダーシップと教員の集団同一性の2つのレベルの関係を検討した。学校教員を対象に行ったWeb調査の結果、校長のリーダーシップとしては変革的リーダーシップとエンパワーリングリーダーシップの2つとし、教員の集団同一性を関係レベル、集団レベルの2つそしてその関係を分析した。その結果、変革的リーダーシップの「知的刺激の提供」は、関係レベルの「管理職との結びつき」、集団レベルの「組織との同一視」とポジティブに関連し、「個別の支援の提供」は教員の関係レベルの「管理職との結びつき」とポジティブに関連した。校長のエンパワーリングリーダーシップは、教員の集団同一性の合計得点とポジティブに関連した。つまり、変革的リーダーシップとエンパワーリングリーダーシップのいずれかが優れているということではなく、組織の状況や教員の状態を把握したうえで、いずれのリーダーシップも必要に応じて発揮することが望ましい可能性が示された。加えて、校長が教員組織を支えるには、教員個々人の関心を認め、それを発展させるように励ます等の働きかけを行えば、教員が集団の一員としての意識を高めることにつながる可能性が示唆された。これらの結果について、教員の多忙感を減らし、チーム学校の促進に資する校長のリーダーシップについて考察した。

第4章 総合考察

本論文のまとめと今後の課題についてまとめた。その中で、教員組織のメンタルヘルスを改善させるために、校長の日常的な影響力へ目を向けること、教員が自己主張できる風土づくりやスキル向上の意義を述べた。さらに、教員が組織の一員であるとの自覚を高めるためには、校長が教員の関心を認め、それを発展させるように励ます働きかけを心がけることの重要性について考察し、今後の課題をまとめた。

2. 審査経過

本研究の結果、学校教育現場に特化した教員組織の研究である点、校長のリーダーシップについて、リーダーである校長の側ではなく、それを受ける教員の認知に着目した点、このことで、組織論を超えて組織のメンバーの心理を捉えた点、教育現場の教員へのアンケートの分析を通じた実証研究である点、教員のメンタルヘルスだけでなく、集団として動くリーダーシップについて解明しようとしている点が高く評価された。

なお、審査経過において、タイトルに「校長」という言葉があった方がいい、との意見がだされ、審査委員全員がそれに賛同したため、タイトルを一部変更することになった。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、清永裕子の提出した学位論文が、博士（学校教育学）の学位を授与するのにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。